

鞠智城跡



鞠智城跡のある米原台地を南側より望む

熊本県教育庁文化課

鞠智城跡調査事務所

[現場事務所] 〒861-04 熊本県鹿本郡菊鹿町大字米原字長者原

☎ 0968-48-3178

(発行 平成9年7月)

鞠智城の名称

鞠智城は平安時代には菊池城とも書かれている。菊池はこの時代に久久知(くくち)と読まれた。城は当時「き」と発音されていたので鞠智城は正式には「くくちのき」である。今日、「きくちじょう」と呼ばれているが、国指定の申請時に、元の「くくちじょう」へ戻す予定である。

鞠智城の位置付け

鞠智城は熊本県内で、唯一の古代山城である。
太宰府の管轄下にあった六城(大野城・基肄城・金田城など)のひとつで、数多い熊本県下の文化遺産の中でも全国一の数を誇る装飾古墳と共に、熊本県の重要な文化財である。

鞠智城の築城時期と築城者

鞠智城の築城時期についての記録は無い。しかし『日本書紀』天智天皇四年(665年)秋八月の頃に、百済の王族出身で祖国を失い日本に亡命してきた達率(官位名)憶礼福留(おくらいふくりゅう)と四比福夫(しひふくふ)の指導によって、筑紫国の大野城と基肄城の二城が築かれたとの記録がある。したがって、これらの二城とともに33年後になって修理する必要があった鞠智城も、同じような時期に築かれたと思われる。

これらの事により、鞠智城の防衛プラン造りには憶礼福留らの渡来人が深く関わっていたものと思われる。

なお、鞠智城に関わりを持った中央役人の末裔が、菊池氏一族や、隈部氏一族のルーツになった可能性は、十分にあると考えられる。

鞠智城跡の調査と整備

- ① 鞠智城跡は、7世紀後半に大和朝廷が築城した日本で数少ない古代山城で、全国有数の重要な遺跡である。県では、国民共有の財産である鞠智城跡の保存・活用を図るため、関係市町(菊鹿町・菊池市)の協力を得ながら、地域づくりの核となるような歴史公園化を目指し調査と整備を行っていく。
- ② 城域は、内城地区(真の城域)と外縁地区(周縁部の城域)を合わせた120haからなっており、内城地区の47haについて保存と整備を図る。

鞠智城跡整備事業の進展状況

- ① 今後も発掘調査を行いながら、平成11年度を一応の目処として、整備を進めていく。
- ② 遺構が集中する内城地区の47haについて、平成6年度から4年計画で公有化する。
- ③ 整備について、6年度は、保存整備基本計画を策定した。7年度は、基本設計を策定し、造成工事、町道付替工事、モニュメント及び周辺整備工事駐車場仮整備を行った。平成8年度は、広場駐車場整備、造成工事、遺跡遺構保存処理を行った。
- ④ 平成9年度は、米倉(20号建物)、兵舎(16号建物)の復原工事、八角形建物の基本設計、実施設計、長者原地区整備工事、遺跡遺構保存処理を行う予定である。

1. 鞠智城跡の概要

鞠智城跡は、熊本県北部に広がる菊池平野の北端部に位置している。

県内で唯一の古代山城である鞠智城は、正史『続日本紀』の文武天皇2年(698年)5月の頃に最初の記録があり、『三代実録』の元慶3年(879年)3月の項まで、城名の記載がある。

古代山城は、大化の改新(645年)を皮切りに、朝鮮半島における白村江の戦いでの敗戦(663年)、大津京遷都(667年)と、日本の古代史上で最も激動の時期といわれる7世紀代に大和政権によって九州や瀬戸内海沿岸、大和地方に築かれた国防上の重要拠点である。

このように鞠智城は重要な遺跡でありながら、永らくその存在が不明のままであったが、昭和に入り、ようやくその位置が確定された。昭和34年12月8日付けで遺跡の一部が「伝鞠智城跡」として県の史跡に指定され、その後、県教育委員会の調査を経て昭和51年8月24日付けで「伝鞠智城跡」から「鞠智城跡」に変更された。

鹿本郡菊鹿町の米原台地を中心区域とする鞠智城跡は、米原集落や周辺に広がる農地や谷、崖線などを取り込み、さらには、菊池市の一部を含む広大な範囲を城域とし、昭和42年から始まった本格調査により、ようやくその内容が明らかにされつつある。平成9年度までの19次にわたる調査の中で、古代山城では初めての八角形建物跡(平成3年度の第13次調査)を検出するなど、学界でも注目を集めている。

〔位置〕

① 鞠智城跡は菊鹿町の南端部と菊池市の西端部をまたぐ米原台地に築かれている。地形的には、うてな台地の基部にあたる所で、北東方向の8km先に八方ヶ岳(標高1052m)が遠望される。

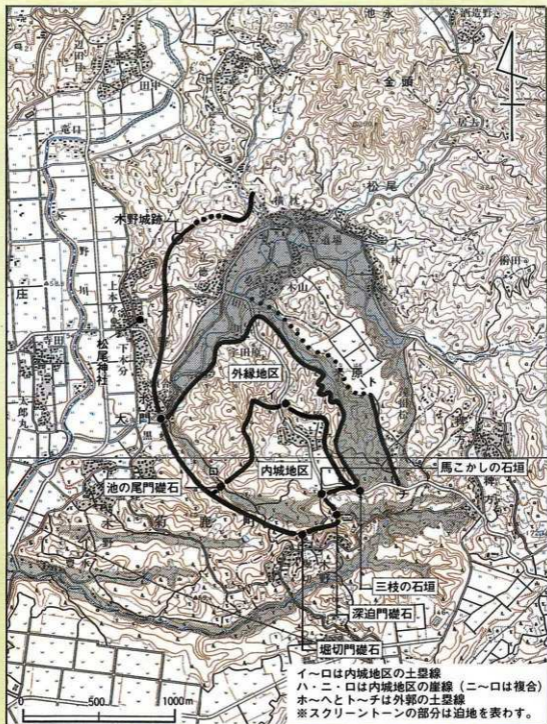
② 菊池川に合流する迫間川と木野川の間うてな台地が広がっている。ちなみに、両河川の合流地点は鞠智城跡から南西方向へ5.5kmのところである。

③ 鞠智城跡と菊池川の河口とは28.5kmの距離がある。加えて大宰府からの直線

距離は80km近くに及ぶ。古代山城
 としては、例外的にかなり内陸部
 へ入り込んでいる。



鞠智城跡 位置図



鞠智城跡城域図

(面積) 内城… 55 ha 外縁地区… 65ha

2. 鞠智城の歴史及び調査の変遷

ア. 歴史

西暦 645年	大化元年	・大化の改新。
649年	大化5年	・蘇我日向を筑紫大宰帥に任ず。
663年	天智2年	・白村江の戦い。
664年	天智3年	・筑紫などに防人と烽を配置。水城を築く。
665年	天智4年	・筑紫に大野城、基肆城を築く。長門に長門城を築く。
667年	天智6年	・大和に高安城、讃岐に屋島城、対馬に金田城を築く。
698年	文武2年	* 『続日本紀』「大宰府をして大野・基肆・鞠智の三城を繕ひ治めしむ」
699年	文武3年	・三野城、稲積城を修繕。
719年	養老3年	・茨城城、常城を停廃。
720年	養老4年	・隼人の反乱。
742年	天平14年	・大宰府の廃止。
745年	天平17年	・大宰府の再置。
858年	天安2年	* 『文徳実録』「菊池城院の兵庫の鼓自ら鳴る」「又鳴る」(2月) 「肥後国菊池城院の兵庫の鼓自ら鳴る」(6月) 「菊池城の不動倉十一字火く」(6月)
875年	貞観17年	* 『三代実録』「カラスの群れが菊池郡倉舎の葺草をかみ抜く」
879年	元慶3年	* 『三代実録』「肥後国菊池城院の兵庫の戸自ら鳴る」
その後、米原長者伝説等で語られる。		

(*: 国史における鞠智城関連記事)

イ. 調査の変遷

西暦	年号	発掘調査	その他
1937	昭和12	_____	・故坂本経亮氏は米原一帯の地形や遺構を踏査し「鞠智城跡に擬される米原遺跡に就いて」を発表。
1959	昭和34	_____	・長者山礎石群及び深迫門礎石を県の史跡「伝鞠智城跡」に指定。
1967	昭和42	・第1・2・3次調査(県教育委員会)	_____
1968	昭和43	・米原台地の農業構造改善事業(開田)および長者山の山林開墾に伴う緊急調査。	_____
1969	昭和44	・第4次調査(県教育委員会) ・宮野礎石と長者山礎石群の掘り出し。 ・長者山の測量。	_____
1976	昭和51	_____	・県指定名称を「鞠智城跡」と改称。
1979	昭和54	・第5次調査(菊鹿町教育委員会) 町道(榊方～立徳線)拡幅工事に伴う事前調査。 ・軒丸瓦片が出土。	_____
1980	昭和55	・第6・7次調査(県教育委員会) ・文化庁国庫補助事業。 ・第6次では上原地区の発掘。 ・第7次では宮野礎石の全面露出。	_____
1981	昭和56	_____	・宮野礎石を県史跡に追加指定。
1982	昭和57	_____	・米原台地の地形図(1/1000)を作成。

1986	昭和61	・第8・9次調査（県教育委員会）	
1987	昭和62	・文化庁国庫補助事業。 ・第8次調査では航空撮影による米原地区の地形図作成作業。 ・第9次調査では長者山礎石群調査。北側段落ち区画より多量の炭化米と布目瓦が出土。	
1988	昭和63	・第10次調査（県教育委員会） ・文化庁国庫補助作業。 ・宮野礎石周辺及び少監どん西側地域の調査。 ・19棟の建物跡を検出。	_____
1989	平成元	・第11次調査（県教育委員会） ・文化庁国庫補助作業。 ・宮野地区の集中調査。建物跡等確認。	・県知事より教育委員会に、県を代表する遺跡の調査を進めるよう指示があり、これに対し鞠智城跡を選定。
1990	平成2	・第12次調査（県教育委員会） ・文化庁国庫補助作業。 ・県の単独事業による重要遺跡確認調査も加わって、調査面積が大幅に増大。 ・長者山東側裾部一帯（宮野礎石建物跡を含む）の調査。	_____
1991	平成3	・第13次調査（県教育委員会） ・文化庁国庫補助作業と県の単独事業による重要遺跡確認調査を継続。 ・町道西側一帯の下原地区（長者原地区）の調査。 ・13年ぶりに軒丸瓦が出土。 ・16棟の建物跡を検出。 ・八角形建物跡2棟を検出。	_____
1992	平成4	・第14次調査（県教育委員会） ・城跡の範囲を確定するため、土塁線の調査。 ・町道沿いの下原地区と上原地区を調査。下原地区から、鞠智城の終末期にあたる礎石建物跡を確認。	_____
1993	平成5	・第15次調査（県教育委員会） ・町道から東側の上原地区を調査。鞠智城時代の遺構はほとんど検出されず。 ・中世遺構が出土。	・県総合計画において、歴史公園化を目指した鞠智城跡の調査、整備がうたわれる。 ・保存整備の基本構想策定。
1994	平成6	・第16次調査（県教育委員会） ・深迫門礎石周辺を調査。 ・登城道や版築によって築かれた土塁を検出。	・保存整備のための「鞠智城跡保存整備検討委員会」発足。 ・鞠智城跡保存整備基本計画策定。 ・「鞠智城跡整備促進期会」発足。 ・上原地区を施策開田し、代替地にあてる。
1995	平成7	・第17次調査（県教育委員会） ・長者原地区の造成工事予定地を調査。 ・新たに2棟の建物跡を検出。（56号、57号） ・部分調査にとまどっていた50号と55号の建物跡を全掘。	・「建物復原検討委員会」発足 ・基本設計を策定 ・造成工事、町道付替工事、モニュメント及び周辺整備工事、駐車場仮整備を行った。
1996	平成8	・第18次調査（県教育委員会） ・長者原地区の造成工事予定地を調査。 ・7棟の建物を検出（58号～64号）この中で、集落に近い高台の区画から、5棟の建物跡を検出した。政庁関係の建物跡と思われる。 ・谷部から、貯水池跡を検出。木簡が出土した。	・造成工事、町道付替工事、遺跡遺構保存処理工事を行った。

3. 遺構の概要

(1) 門礎石

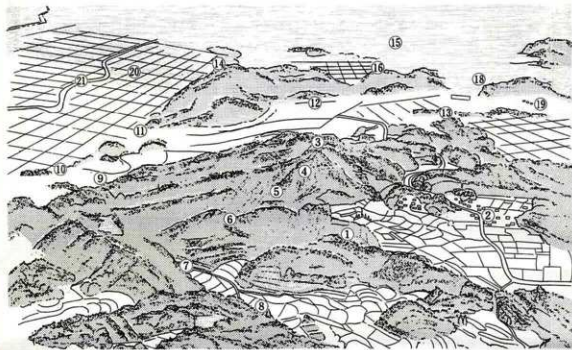
池ノ尾門礎石	・城跡の西南の位置。水路の中に小振りの門礎石（ほぞ穴2つ）がある。
堀切門礎石	・城跡の南端中央部から城内に通じる重要な通路の一つと考えられ、巨大な門礎石がある。（ほぞ穴2つ。先端部は割られて、木野神社へ運び込まれている）
深迫門礎石	・鞠智城の全体から見れば、東南の位置。 ・「長者どんの的石」と呼ばれる門礎石（ほぞ穴1つ）が谷頭に、傾斜の状態である。

(2) 石垣

馬こかしの石垣	・池ノ尾・堀切・深迫門礎石から城の中心部、通じるやせ馬のような通路。 ・東壁に石垣が積まれている。
三枝の石垣	・米原と鐘掛松及び一寸榎方面とを結ぶやせ馬のような通路。 ・南壁に石垣が積まれている。

(3) 建物跡

礎石建物跡及び掘立柱建物跡	・これまでに鞠智城跡から、数多くの建物跡が確認されている。 ・米原台地を南北に縦断する町道西側の長者原地区（長者山も含む）で53棟、町道東側の上原地区から6棟、合計59棟（掘立柱建物41棟、礎石建物18棟）を数えるが、今後、その数はさらに増えるものと予測される。（平成8年5月現在）
八角形建物跡	・鞠智城跡からは日本の古代山城では初めての八角形建物跡が検出されている。（他に都城の例として、7世紀中頃に造営された前期難波宮跡に2棟の例があるのみ） ・韓国の二聖（イ-ソン）山城でも確認されており、両国の文化交流を考える上でも貴重な遺構である。



- ① 長者山(字・長者原)
- ② 米原
- ③ 佐官しやくわんドン
- ④ 涼みすずみヶ御所
- ⑤ 灰塚はいづか
- ⑥ 長者山(大字・木野)

- ⑨ 池の尾門いけのおもん礎
- ⑧ 屏風岩びやうぶライン
- ⑨ 大門だいもん
- ⑩ 下本分げほんぶん(頭合)
- ⑪ 上本分かみほんぶん
- ⑫ 立徳たいてく

- ⑬ 木山きさん
- ⑭ 腰掛こしかけ松
- ⑮ 下永野げえいの
- ⑯ 木野城(中世)
- ⑰ 合瀬川あわせがわ
- ⑱ 横枕よこまくら

- ⑲ 道場みちじょう
- ⑳ 鹿本平野(条里制)
- ㉑ 木野川

鞠智城跡とその周辺地形



木筒 (もっかん)

貯水池跡の粘土層から出土した。

長さ13.4cm、幅2.6cm、厚さ5.0cm。

解説文は、

「泰人忍(米)五斗」

泰人忍という者が、米を五斗(一俵)納税した事がわかる。木筒は、その時に米俵に付けた荷札である。

表面は未調整で、墨痕はない。破棄する時に、表面から、わずかに刃物を入れて、折り取っている。

木製品

木製品は、木筒や須恵器、土師器と共に、貯水池跡から出土した。遺物の年代は、7世紀後半から8世紀前半時期と推定される。

木製品は、組み合わせ鋤(2個体)と横槌で、材質は、カシと考えられる。鋤は、貯水池を造る時に、使用された土木工具と思われる。





米原台地を東側から望む
(手前より米原台地 → 菊池平野 → 金峰山)



鞠智城跡の遺構検出状況 (平成9年7月現在)



宮野礎石建物跡 (49号)

(鞠智城跡で最大の建物 撮影は平成6年)



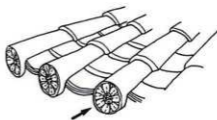
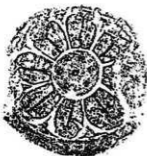
重なり合う礎石建物跡 (20~21号)

★中央部は、掘立柱建物 (35号) → 礎石建物 (23号) → 礎石建物 (22号)の順に建て替えられている。

百済系の軒丸瓦

ほぼ完全な軒丸瓦の瓦当が礎石建物の溝跡から出土した。米倉等の屋根構造を知る上で、極めて重要な遺物である。30年間の調査でも、2片しか出土していない。白鳳時代 (7世紀後半から8世紀前半) のもので、県内では最古の瓦である。

軒丸瓦は、屋根の軒先に敷くが、丸瓦に瓦当を接合して作る。今回、出土したのは、瓦当と呼ばれる先端の丸い部分で、文様が描かれている。型押し文様で、七個の蓮子とその周りに八葉の花弁を表現している。



出土瓦

30年間の調査でも、全体的に、布目瓦の出土量は、少ない。平瓦が大半で若干の丸瓦が混じる。軒丸の文様瓦は百済系のもので、細片を含めて、3個しか出土していない。



丸瓦



平瓦



モニュメント広場の鞠智城温故創生之碑

鞠智城跡・温故創生の碑写真真集より（製作・発行＝石原昌一）



鞠智城跡の航空写真（平成9年7月現在）



南側八角形建物跡
(建物の性格は鼓樓説が有力である)

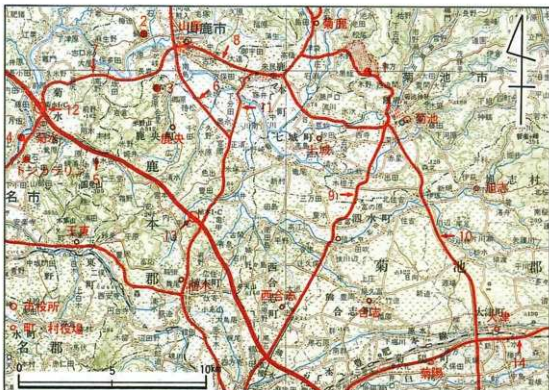


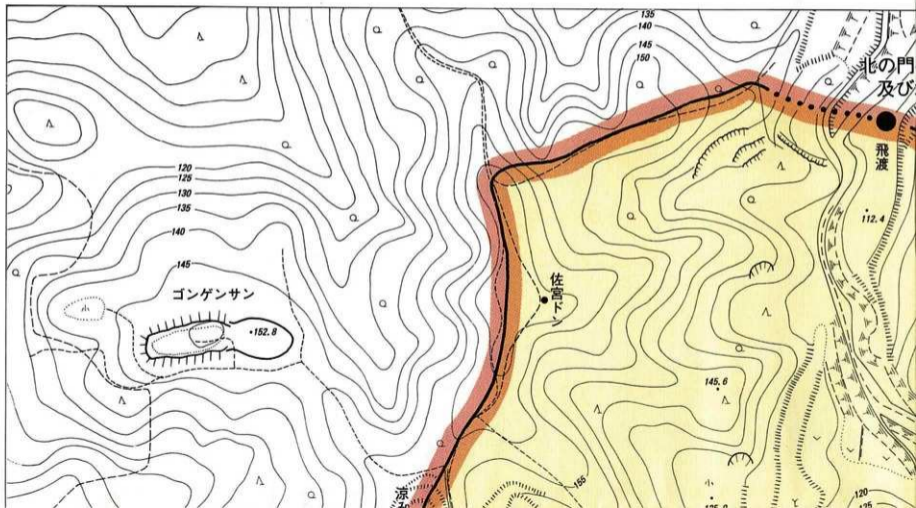
深迫門礎検出の版築土壘
(厚さ5~10cmの粘土を吹き積りながら積み上げたもの)

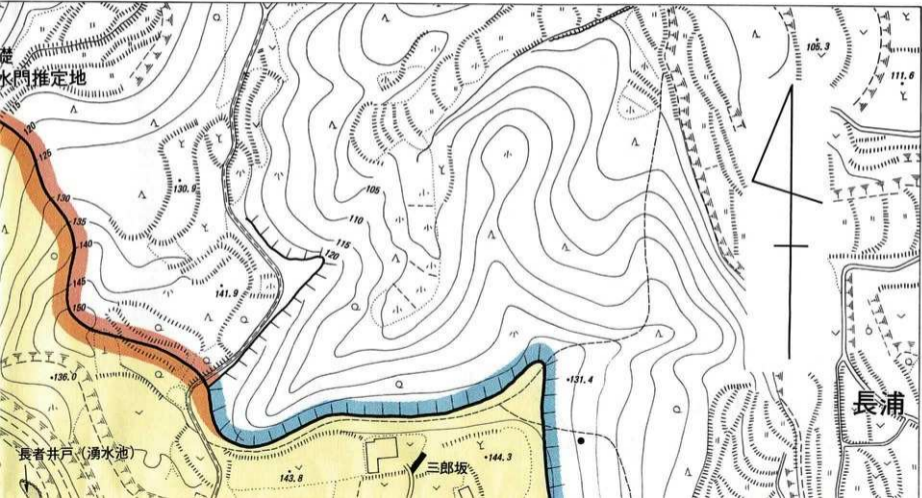
鞠智城跡への案内図

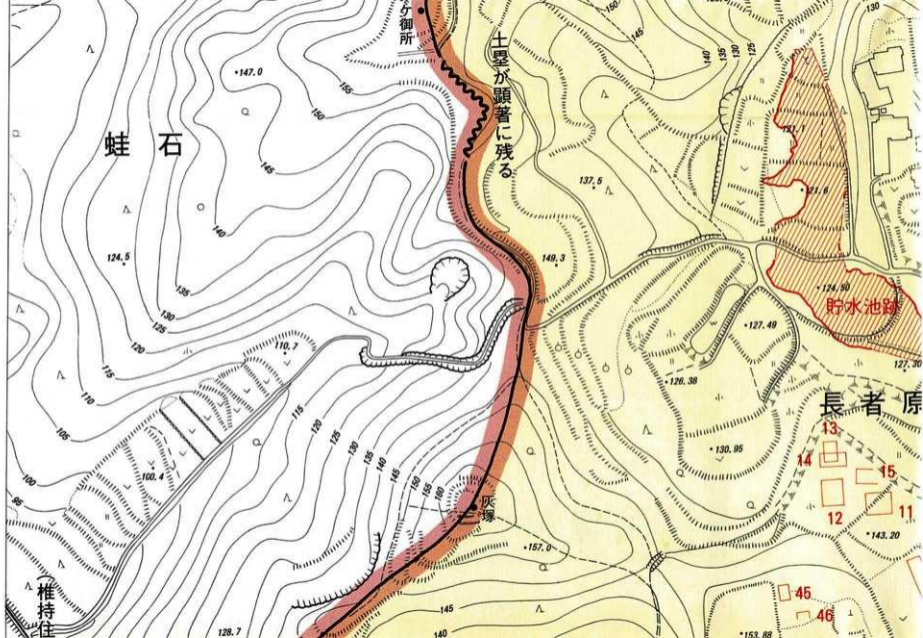
地図番号	内 容		
1	鞠智城跡	8	国道325号線
2	肥後古代の森 (山鹿地区)	9	国道387号線
3	肥後古代の森 (鹿央地区)	10	国道325号線
4	肥後古代の森 (菊水地区)	11	国道198号線
5	九州縦貫自動車道	12	菊水インター (九縦自動車道)
6	国道3号線	13	熊本インター (九縦自動車道)
7	国道玉名・山鹿線	14	国道57号 (菊池バイパス)

地 点	距離	使用 時間	使 用 道 路
熊本市街地 (起点・市役所)	30km	60分	国道3号⇒国道198号⇒国道325号⇒ 国道9号⇒国道196号⇒町道
九州縦貫自動車道 (起点・熊本インター)	10km	20分	高道⇒国道3号⇒国道198号⇒ 国道325号⇒国道9号⇒国道196号⇒町道
九州縦貫自動車道 (起点・菊水インター)	20km	45分	国道18号⇒国道325号⇒国道9号⇒ 国道196号⇒町道
熊本空港	20km	40分	国道36号⇒国道325号⇒ 国道18号バイパス⇒町道









蛙石

土壁が顕著に残る

御所

長者原

貯水池跡

灰塚

椎持住

•147.0

124.5

137.5

149.3

•124.50

•127.49

•126.38

•130.95

•157.0

128.7

13

14

15

12

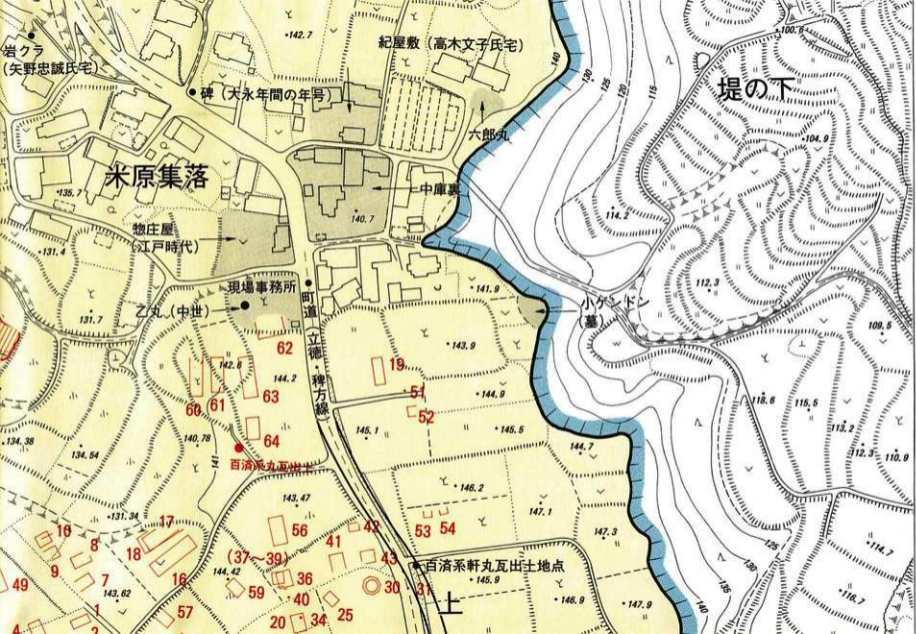
11

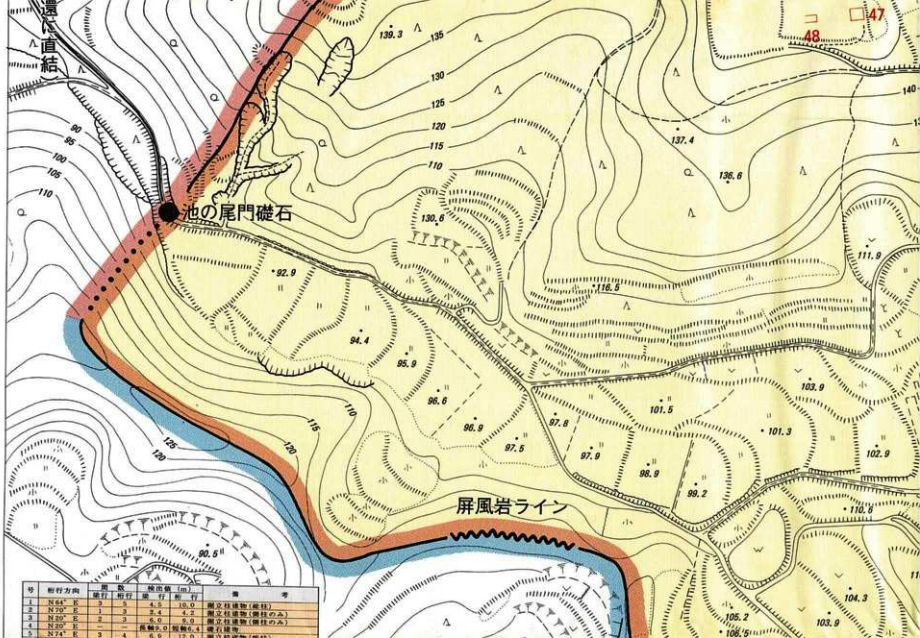
•143.20

45

46

•153.88

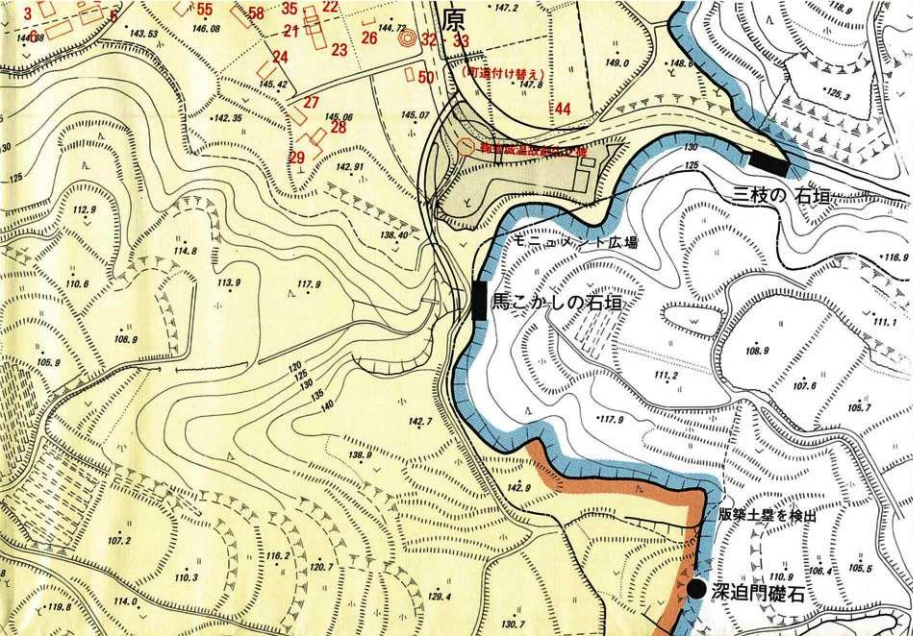




池の尾門礎石

屏風岩ライン

号	航路方向	間数		間隔値 (m)		備考
		總計	航路	總計	航路	
1	N64° E	3	5	4.5	10.0	開文社遺物(櫓柱)
2	N70° E	1	3	2.4	4.2	開文社遺物(櫓柱の尖)
3	N70° E	2	3	2.0	5.0	開文社遺物(櫓柱の尖)
4	N74° E	—	—	—	—	遺物(0) 距離6.4
5	N74° E	3	4	3.5	—	梁行建物



原

(町道付け替え)
147.8

新町成道故郷公園の跡

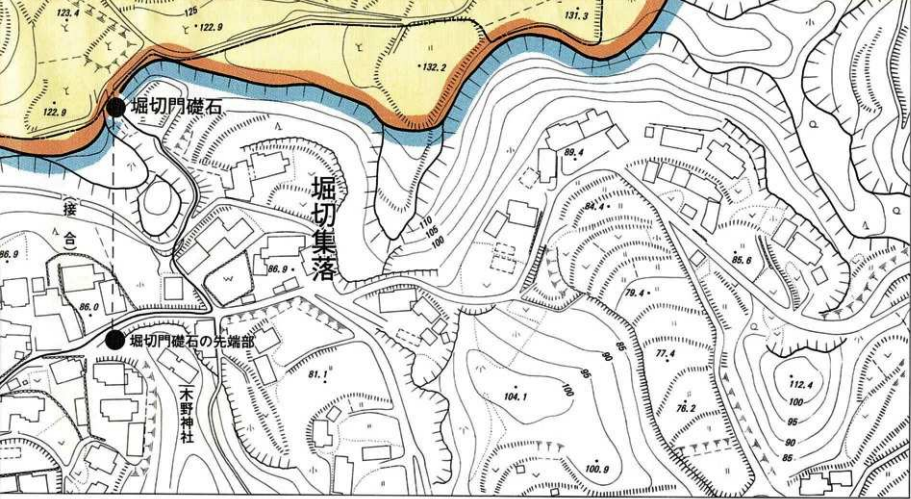
三枝の石垣

モニUMENT広場

馬こかしの石垣

版築土塁を検出

● 深迫門礎石



建築物跡

※ 上原地区は圃場整備前の地形である。

鞠智城跡



熊本県教育庁文化課 鞠智城跡調査事務所

(現事務所) 〒861-04 熊本県鹿本郡鹿町大字米原字長者原
☎ 0968-48-3178

(発行 平成9年7月)

鞠智城の名称

鞠智城は平安時代には菊池城とも書かれている。菊池はこの時代に久久知(くくち)と読まれた。城は当時「き」と発音されていたので鞠智城は正式には「くくちのき」である。今日、「きくちじょう」と呼ばれているが、国指定の申請時に、元の「くくちじょう」へ戻す予定である。

鞠智城の位置付け

鞠智城は熊本県内で、唯一の古代山城である。太宰府の管轄下にあった六城(大野城・赤井城・安田城など)のひとつで、数多い熊本県下の文化遺産の中でも全国一の数を誇る装飾古墳と共に、熊本県の重要な文化財である。

鞠智城の築城時期と築城者

鞠智城の築城時期についての記録は無い。しかし「日本書紀」天智天皇四年(665年)秋八月の頃に、百済の王族出身で祖国を失い日本に亡命してきた連率(官位名)豊礼福留(おくらいふくりゅう)と四比福夫(しひふくふ)の指導によって、筑紫国の大野城と基肄城の二城が築かれたとの記録がある。したがって、これらの二城とともに33年後になって修理する必要があった鞠智城も、同じような時期に築かれたと思われる。

これらの事により、鞠智城の防衛プラン造りには豊礼福留らの渡来人が深く関わっていたと思われる。

なお、鞠智城に関わりを持った中央役人の末裔が、菊池氏一族や、隈部氏一族のルーツになった可能性は、十分にあると考えられる。

鞠智城跡の調査と整備

- 鞠智城跡は、7世紀後半に大和朝廷が築城した日本で数少ない古代山城で、全国有数の重要な遺跡である。県では、国民共有の財産である鞠智城跡の保存・活用を図るため、関係市町(菊池町・菊池市)の協力を得ながら、地域づくりの核となるような歴史公園化を目指し調査と整備を行っている。
- 城域は、内城地区(真の城域)と外城地区(周縁部の城域)を合わせた120haからなっており、内城地区の47haについて保存と整備を図る。

鞠智城跡整備事業の進展状況

- 今後も発掘調査を行いながら、平成11年度を一応の日処として、整備を進めていく。
- 遺構が集中する内城地区の47haについて、平成6年度から4年計画で公有化する。
- 整備について、6年度は、保存整備基本計画を策定した。7年度は、基本設計を策定し、造成工事、町道付替工事、モニュメント及び周辺整備工事駐車場整備を行った。平成8年度は、広場駐車場整備、造成工事、遺跡遺構保存処理を行った。
- 平成9年度は、米倉(20号建物)、兵舎(16号建物)の復原工事、八角形建物の基本設計、実施設計、長者原地区整備工事、遺跡遺構保存処理を行う予定である。



青色は崖線 赤色は土塁線 1～64は検出建物跡

※ 上原地区は圃場整備前の地形である。

検出建物一覧表

1. 鞠智城跡の概要

鞠智城跡は、熊本県北部に広がる菊池平野の北端部に位置している。県内で唯一の古代山城である鞠智城は、正史『続日本紀』の文武天皇2年(698年)5月の頃に最初の記録があり、『三代実録』の元慶3年(879年)3月の項まで、城名の記載がある。

古代山城は、大化の改新(645年)を皮切りに、朝鮮半島における白村江の戦いでの敗戦(663年)、大津京遷都(667年)と、日本の古代史上で最も激動の時期といわれる7世紀代に大和政権によって九州や瀬戸内海沿岸、大和地方に築かれた国防上の重要拠点である。

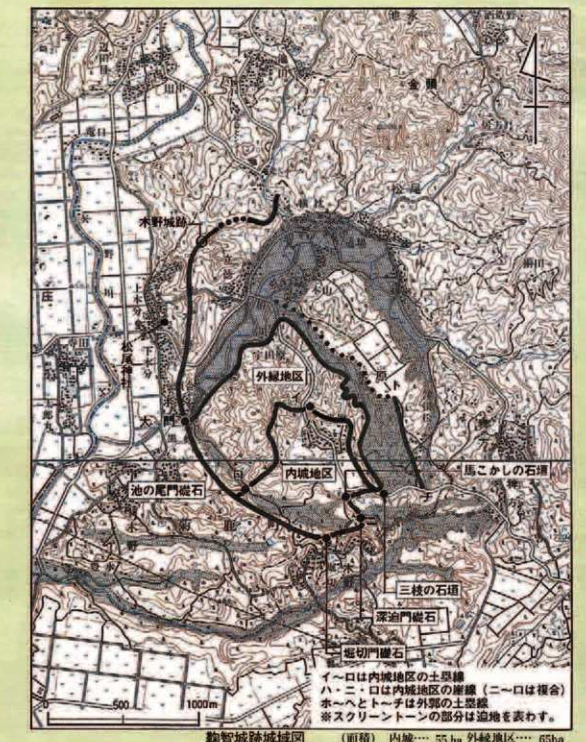
このように鞠智城は重要な遺跡でありながら、永らくその存在が不明のままであったが、昭和に入り、ようやくその位置が確定された。昭和34年12月8日付けで遺跡の一部が「伝鞠智城跡」として県の史跡に指定され、その後、県教育委員会の調査を経て昭和51年8月24日付けで「伝鞠智城跡」から「鞠智城跡」に変更された。

熊本郡菊池町の米原台地を中心区域とする鞠智城跡は、米原集落や周辺に広がる農地や谷、崖線などを取り込み、さらには、菊池市の一部を含む広大な範囲を城域とし、昭和42年から始まった本格調査により、ようやくその内容が明らかにされつつある。平成9年度までの19次にわたる調査の中で、古代山城では初めての八角形建物跡(平成3年度の第13次調査)を検出するなど、学界でも注目を集めている。

【位置】

- ① 鞠智城跡は菊池町の南端部と菊池市の西端部をまたぐ米原台地に築かれている。地形的には、うてな台地の基部にあたる所で、北東方向の8km先に八方ヶ岳(標高1052m)が遠望される。
- ② 菊池川に合流する追間川と木野川の間にうてな台地が広がっている。ちなみに、両河川の合流地点は鞠智城跡から南西方向へ5.5kmのところである。
- ③ 鞠智城跡と菊池川の河口とは28.5kmの距離がある。加えて大宰府からの直線

距離は80km近くに及ぶ。古代山城としては、例外的にかなり内陸部へ入り込んでいる。



2. 鞠智城の歴史及び調査の変遷

ア. 歴史

西暦 645年	大化元年	・大化の改新。
649年	大化5年	・蘇我日向を筑紫大宰府に任ず。
663年	天智2年	・白村江の戦い。
664年	天智3年	・筑紫などに防人と烽を配置。水城を築く。
665年	天智4年	・筑紫に大野城、基肄城を築く。長門に長門城を築く。
667年	天智6年	・大和に高安城、讃岐に屋島城、対馬に金田城を築く。
698年	文武2年	＊『続日本紀』「大宰府をして大野・基肄・鞠智の三城を構ひ治めしむ」
699年	文武3年	・三野城、楢積城を修繕。
719年	養老3年	・茨城城、常城を修繕。
720年	養老4年	・牟人の反乱。
742年	天平14年	・大宰府の廃止。
745年	天平17年	・大宰府の再置。
858年	天安2年	＊『文徳実録』「鞠智城院の兵卒の鼓自ら鳴る」「又鳴る」(2月) 「肥後国菊池城院の兵卒の鼓自ら鳴る」(6月) 「鞠智城の不勦倉一宇火く」(6月)
875年	貞観17年	＊『三代実録』「カラスの群れが菊池郡倉舎の葺草をかみ抜く」
879年	元慶3年	＊『三代実録』「肥後国菊池城院の兵卒の戸自ら鳴る」

その後、米原長者伝説等で語られる。(※: 国史における鞠智城関連記事)

イ. 調査の変遷

西暦	年号	発掘調査	その他
1937	昭和12		・故坂本経典氏は米原一帯の地形や遺跡を調査し「鞠智城跡に疑される米原遺跡に就いて」を発表。
1959	昭和34		・長者山礎石跡及び深泊門礎石を県の史跡「伝鞠智城跡」に指定。
1967	昭和42	・第1・2・3次調査(県教育委員会)	
1968	昭和43	・米原台地の農業構造改善事業(圃田)および長者山の山林開墾に伴う緊急調査。	
1969	昭和44	・第4次調査(県教育委員会) ・宮野礎石と長者山礎石群の掘り出し。 ・長者山の調査。	
1976	昭和51		・県指定名称を「鞠智城跡」と改称。
1979	昭和54	・第5次調査(菊池町教育委員会) 町道(神方-立地線)拡張工事に伴う事前調査。 ・軒瓦片が出土。	
1980	昭和55	・第6・7次調査(県教育委員会) ・文化庁国庫補助事業。 ・第6次では上原地区の発掘。 ・第7次では宮野礎石の全面発掘。	
1981	昭和56		・宮野礎石を県史跡に追加指定。
1982	昭和57		・米原台地の地形図(1/1000)を作成。

1986	昭和61	・第8・9次調査(県教育委員会)	
1987	昭和62	・文化庁国庫補助事業。 ・第8次調査では航空撮影による米原地区の地形図作成作業。 ・第9次調査では長者山礎石群調査。北側段部も区画より多量の炭化米と布目瓦が出土。	
1988	昭和63	・第10次調査(県教育委員会) ・文化庁国庫補助事業。 ・宮野礎石周辺及び少監どん西側地域の調査。 ・19棟の建物跡を検出。	
1989	平成元	・第11次調査(県教育委員会) ・文化庁国庫補助事業。 ・宮野地区の集中調査。建物跡等確認。	・県知事より教育委員会に、県を代表する遺跡の調査を進めるよう指示があり、これに対し鞠智城跡を選定。
1990	平成2	・第12次調査(県教育委員会) ・文化庁国庫補助事業。 ・県の単独事業による重要遺跡確認調査も加わって、調査面積が大幅に増大。 ・長者山東麓部一帯(宮野礎石建物跡を含む)の調査。	
1991	平成3	・第13次調査(県教育委員会) ・文化庁国庫補助事業と県の単独事業による重要遺跡確認調査を併行。 ・町道西側一帯の下原地区(長者原地区)の調査。 ・13年ぶりに軒瓦片が出土。 ・16棟の建物跡を検出。 ・八角形建物跡2棟を検出。	
1992	平成4	・第14次調査(県教育委員会) ・城跡の範囲を確定するため、土塁線の調査。 ・町道沿いの下原地区と上原地区を調査。下原地区から、鞠智城の終末期にあたる礎石建物跡を確認。	
1993	平成5	・第15次調査(県教育委員会) ・町道から東側の上原地区を調査。鞠智城時代の遺構はほとんど検出されず、中世遺構が出土。	・県総合計画において、歴史公園化を目指した鞠智城跡の調査、整備がうたわれる。 ・保存整備の基本構想策定。
1994	平成6	・第16次調査(県教育委員会) ・深泊門礎石周辺を調査。 ・登城道や坂によって築かれた土塁を検出。 ・中世遺構が出土。	・保存整備のための「鞠智城跡保存整備検討委員会」発足。 ・鞠智城跡保存整備基本計画策定。 ・「鞠智城跡保存促進期成会」発足。 ・上原地区を築城団地、代移地にあてる。
1995	平成7	・第17次調査(県教育委員会) ・長者原地区の造成工事予定地を調査。 ・新たに2棟の建物跡を検出。(56号、57号) ・部分調査にとどまっていた50号と55号の建物跡を全掘。	・「建物復原検討委員会」発足 ・基本設計を策定 ・造成工事、町道付替工事、モニュメント及び周辺整備工事、駐車場整備を行った。
1996	平成8	・第18次調査(県教育委員会) ・長者原地区の造成工事予定地を調査。 ・7棟の建物跡を検出(58号~64号)この中で、集落に近い高台の区画から、5棟の建物跡を検出した。取付関係の建物跡と思われる。 ・谷部から、貯水池跡を検出。木簡が出土した。	・造成工事、町道付替工事、遺跡遺構保存処理工事を行った。

3. 遺構の概要

(1) 門礎石

深ノ尾門礎石	・城跡の西南の位置。水路の中に小振りな門礎石(ほぞ穴2つ)がある。
礎切門礎石	・城跡の南端中央部から城内に通じる重要な通路の一つと考えられ、巨大な門礎石がある。(ほぞ穴2つ)。先端部は削られて、水野神社へ運び込まれている。
深泊門礎石	・鞠智城の全体から見れば、東側の位置。 ・「長者どんの礎石」と呼ばれる門礎石(ほぞ穴1つ)が谷間に、傾斜の状態である。

(2) 石垣

馬こかしの石垣	・池ノ尾・礎切・深泊門礎石から城の中心部、通じるやせ馬のような通路。 ・東壁に石垣が積まれている。
三枝の石垣	・米原と深泊谷及び一宮方面とを結ぶやせ馬のような通路。 ・南壁に石垣が積まれている。

(3) 建物跡

礎石建物跡及び掘立柱建物跡	・これまでに鞠智城跡から、数多くの建物跡が確認されている。 ・米原台地を南北に縦断する町道西側の長者原地区(長者山も含む)で53棟、町道東側の上原地区から6棟、合計59棟(掘立柱建物41棟、礎石建物18棟)を検出するが、今後、その数はさらに増えるものと予測される。(平成8年5月現在)
八角形建物跡	・鞠智城跡からは日本の古代山城では初めての八角形建物跡が検出されている。(他に郡城の例として、7世紀中頃に造営された前期羅漢宮跡に2棟の例があるのみ) ・鞠智城の二重(イーン)山城でも確認されており、両国の文化交流を考えると貴重な遺構である。



- ① 長者山(字・長者原)
- ② 米原
- ③ 佐賀ドン
- ④ 塚みヶ池前
- ⑤ 茨城
- ⑥ 長者山(大字・木野)
- ⑦ 池の危門礎
- ⑧ 屏風石ライン
- ⑨ 大門
- ⑩ 下木分(谷合)
- ⑪ 上木分
- ⑫ 立地
- ⑬ 木山
- ⑭ 徳掛松
- ⑮ 下木野
- ⑯ 木野川(中世)
- ⑰ 米原平野(奈良朝)
- ⑱ 木野川
- ⑲ 道場
- ⑳ 宮野礎石
- ㉑ 合瀬川
- ㉒ 楢積



米原台地を東側から望む(手前より米原台地→菊池平野→金峰山)

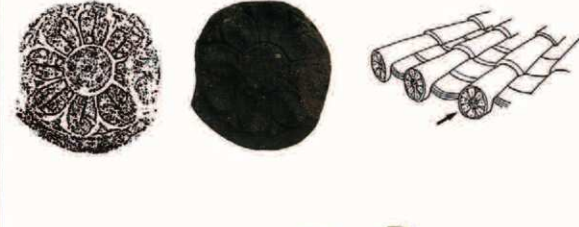


鞠智城跡の遺構検出状況(平成9年7月現在)



宮野礎石建物跡(49号)(鞠智城跡で最大の建物 撮影は平成6年)
重なり合う礎石建物跡(20~21号)
※中世には、掘立柱建物(50号)→礎石建物(52号)の順に建て替えられている。

百済系の軒瓦
ほは完全な軒瓦の瓦当が礎石建物の溝跡から出土した。米原等の屋根構造を知る上で、極めて重要な遺物である。30年間の調査でも、2片しか出土していない。白鳳時代(7世紀後半から8世紀前半)のもので、県内では最古の瓦である。
軒瓦は、屋根の軒先に敷くが、瓦尻に瓦当を接合して作る。今回、出土したのは、瓦当と呼ばれる先端の丸い部分で、文様が描かれている。押型した文様で、七個の蓮子とその周りに八葉の花弁を表現している。



出土瓦
30年間の調査でも、全体的に、着目瓦の出土量は、少ない。平瓦が大平で着年の瓦が混じる。軒瓦の文様瓦は百済系のもので、断片を含めて、3個しか出土していない。



モニュメント広場の鞠智城遺跡創生之碑
鞠智城跡・温故創生の碑写真集より(製作・発行=石原昌一)



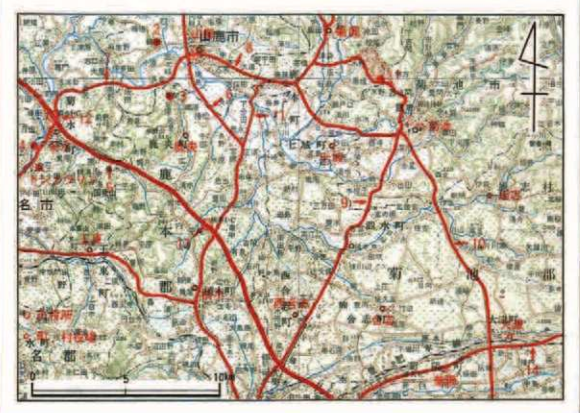
鞠智城跡の航空写真(平成9年7月現在)



南側八角形建物跡(建物の性格は数種が有力である)
深泊門礎石出土の礎石土器(7世紀後半から8世紀前半のものと推定される)

鞠智城跡への案内図

路線番号	内容	乗車時間	乗車料金	乗車回数
1	鞠智城跡	8	100円	1回
2	熊本駅(熊本駅)	9	100円	1回
3	熊本駅(熊本駅)	10	100円	1回
4	熊本駅(熊本駅)	11	100円	1回
5	九州縦貫自動車道	12	100円	1回
6	熊本駅(熊本駅)	13	100円	1回
7	熊本駅(熊本駅)	14	100円	1回



この電子書籍は、折込み地図パンフレット 鞠智城跡（1997 年度版）を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用してください。

底本は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、都道府県の教育委員会と図書館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名：鞠智城跡（1997 年度版）

発行：熊本県教育委員会

〒862-8609 熊本市中央区水前寺 6 丁目 18 番 1 号

電話：096-383-1111

URL：<http://www.pref.kumamoto.jp/>

電子書籍制作日：西暦 2024 年 7 月 20 日